

消火活動概要

黄りんへの直接ストリート放水は避け（飛散防止）、大量噴霧放水にて空気を遮断、ドラム缶等へは冷却噴霧放水を実施

鎮火日時

平成30年5月16日（水）14時34分
（鎮火まで2時間12分）

黄りんについて

特性（第3類危険物）
湿った空気では30℃で発火、猛毒
対処法
空気に触れないようにする。
噴霧放水、乾燥砂、呼吸器

■ 災害事例③（鉛さい）

覚知日時

平成30年6月24日（日）8時10分

発生場所

倉庫

焼損程度等

鉄骨造テント張平屋建倉庫のテント側壁1m焼損。

（鉛灰入りのフレコンバック内で何らかにより発熱し蓄熱）

出場体制

限定出場（即鎮火災）

消火活動概要

鉛さいへの注水は避け、パーライト及び砂にて主火力を制圧、重機にて堆積状態を崩し深部温度及び状況を管理し、温度低下すればドラム缶に小分け作業を実施

鎮火日時

平成30年7月5日（木）8時25分



砂による消火



堆積を崩した鉛さい

■ 本事業での鉛さいについて

（鎮火まで11日15分）
バッテリーの鉛を製錬する過程で発生する鉛、含有は70%程度で酸化鉛の中間物のようなもの。品名は限定できない。

特性

火災により刺激性、毒性ガスを発生するおそれがある。

対処法

過熱を避ける。十分に換気する。

■ 各事例の共通点

- 各物品の特性
- ・外気（酸素）や水に触れることで化学反応を起こし発熱・発火した。（黄りんの場合は外気に触れるだけで発熱し自然発火）
- ・化学反応を起こす際には、可燃性ガスや有毒ガスが発生していた。
- 消火するには、パーライトや乾

燥砂、特殊消火剤散布器（メタレックス）、ドライケミカル等特殊な薬剤による消火が必要であるため、消火方法が限定される。

○ 大量に堆積された物品が燃焼している場合は、前記消火薬剤等を大量投与する必要があるため、相当数量の薬剤を確保しなければならぬ。

○ 鎮火まで長時間を要する。

■ 事例から見る活動上の留意事項等

- 情報収集
- ・関係者から保管・取扱っている品名・数量・危険性
- ・消火薬剤の保有状況
- ・除去した物品の一時保管場所の有無
- ・確保可能な重機台数及びオペレーターの人数
- ・その他

○活動方針

・物品の特性にもよるが、注水にあつては冷却、延焼阻止等目的を明確にし、筒先数の整理を行う等統制を図ること。

・必要な場合は、重機等により延焼危険のある物品等の除去作業も並行して行うこと。
・延焼危険等、被害が拡大するおそれがなく関係者と協議した結果、物品を温度低下

させるために経過を観察する場合は、定期的に巡回警戒を行い、管理体制を怠らないこと。
・必要に応じて深部温度を測定すること。

○安全管理

・有毒ガスの発生等も危惧されることから、呼吸管理を確実に実行して活動すること。

・密閉空間において、よりきめ細かい金属粉を取り扱っている場合は「粉じん爆発」が起こりうることも認識した上で活動すること。

■ 今後に生かす

部隊指揮者は事前任務に基づく放水で、一挙制圧を図るといふセオリーが通じない火災が増えてきていることを認識するとともに、早期情報収集により火災の性状に応じた活動方針（防ぎよ活動）を徹底することが重要である。

消防II「プロの火消し」である以上、その対応策をおさなりにすることなく、情報収集等により関係物質や状況を多角的に把握し、人的被害を無くして火災拡大を阻止する消火の対策等、トータル被害を最小限に止めていかなければならない。

（文責 宇藤）